

平成30年度実施分 評価コメント(協働事業)

	事業名	子どもたちがつくる青少年会館居場所事業
①	団体名	だいすき松戸！子どもフェスティバル実行委員会
	事業担当課	生涯学習推進課 青少年会館
評価コメント	<p>【会長】 団体と青少年会館が互いに連携し合いながら2つのプログラムの進行管理を滞りなく行い、事業成果に結びつけた点を高く評価します。 事業実施を通じて得られた知見により本事業が成長していくことを期待します。併せて本提案制度終了後の体制について、特に青少年会館が主体的に検討されることを望みます。 この取組により、青少年会館で働く職員に対して良い刺激が生じたのは、嬉しい効果だと思います。</p> <p>【委員】 「子どもに関わる担い手育成」や、小学生に携わる「中高生のボランティア」の発掘と育成が、様々なゲームづくりやパフォーマンス・体験を継続的に展開するなかで、顔の見える関係づくりに成功している。青少年会館との協働により、他の会館利用団体や社会教育団体とのつながりもできている。参加者が「青少年会館キッズメンバー」として登録し、「会館」の認知度への貢献度も高い。「会館」を拠点に、地域でのさらなるつながりが期待できる。</p> <p>【委員】 事業としては計画通りに実施でき、次の展開に期待します。今年度については、担い手育成プログラムに参加した中高生のボランティアの様子、感想なども成果として報告いただきたいと思います。彼らは学校卒業とともに巣立っていくわけなので、年代に応じた継続する仕組みを検討してはいかがでしょうか。</p> <p>【委員】 協働事業となって2年目に入り、活動が充実してきた様子が窺えます。夏休み中も16日間色々な催しを展開し参加する子供も楽しく過ごすことが出来た様です。又、次世代の担い手を育成することも視野に入れている点は、高く評価できると思います。その為の企画会議や、準備なども念入りに行っているとの報告がありました。恐らく運営するスタッフも十分達成感を味わったのではないのでしょうか。子供達にとって日常とは違う環境においての体験は、成長する上で大切なものと考えられますので、今後とも益々パワーアップする方向で進んでいくことを願います。</p> <p>【委員】 色々な団体を集めてのイベント、よく企画され、実行されました。大変よかったですと思います。ただ、報告書の中で、参加者数など十分まとめられてなかったのは残念でした。最後まで、責任をもって対応していただくとよいのですが。</p> <p>【委員】 安定した事業と感じています。スタッフ、ボランティアさんが次世代へつながっていきそうなことで何より喜ばしく思います。 昔PTA役員時に、お化け屋敷をやったことを思い出しました。若いということは素晴らしいもので、無かなんでも生み出してしまいます。地元PTAとのつながりを大事にしてください。</p> <p>【委員】 「青少年会館」をベースに活動をしており、地域が限定される傾向である。 事業に参加した「大学生」「高校生」などがノウハウや人的なつながりを活用して新たな展開へと進む可能性を広げられないか。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(協働事業)

	事業名	災害時要配慮者支援事業
②	団体名	小金原連合町会防災部
	事業担当課	危機管理課
評価コメント	<p>【会長】 団体と危機管理課が協働関係を構築して複数事業を着実に実施し、事業成果に結びつけた点を高く評価します。 とくに小金原要配慮者支援会議の開催において、市役所のいろいろな課が出席したのは、複雑な課題の解決について行政内のヨコ連携の持つ可能性を関係者が実感する場になったと思います。 事業実施を通じて得られた知見を踏まえて、団体と危機管理課が協働して本事業の地域への浸透を期待します。</p> <p>【委員】 災害時における福祉や男女共同参画の視点での取り組みは最も重要です。小金原連合町会防災部と市行政の関係11課との「要配慮者支援会議」の実施は、医療関係者や介護事業者、特別支援学校や福祉団体等の地域連携をより有効化させています。講演会・シンポジウム開催や800名参加の「防災フェア」が、より多くの市民や地域に周知・浸透されることを期待します。</p> <p>【委員】 この事業は市危機管理課との協働事業として、多くの協働の成果を生み出していると思います。市はこれをモデル事業として市内他の地域でも可能性を検討していただければ広がりが持てるのではないのでしょうか。</p> <p>【委員】 災害時に要配慮者を支援することに特化した防災活動ですが、報告を伺うと、とても奥が深いことが認識できます。要配慮者といっても様々で、高齢者、障害者、妊婦、幼児を抱えた親など、日常においても支援が必要と思われる中で、いざ災害となった時にどこまで手を差し伸べることが出来るのかは、この活動の様に普段の訓練に依るしかないのではないのでしょうか。過去の災害時ではあまり報道されませんが、健常者でも苦勞をしている姿を見るにつけ、要配慮者がいかに大変な思いをしているのかは想像すら出来ません。防災フェアに800人の参加があったのも、多くの方が危機感を持っている証拠でしょう。何よりも防災に対する知識を持ち、尚且つ訓練によって体で覚えることにより、いざとなった時にその成果が生かされることと思います。</p> <p>【委員】 防災は、地域全体で考えるべき重要な意味があります。その意味では、地域の方々を多く集め、お祭りのようなことをやるのは有効です。イベントで800名集まったことは大変重要です。今後とも皆さんが飽きないで、参加していただけるような工夫をお考え下さい。有効期限の近いものを参加者へのお土産(景品)として渡すのも一つの案かと思います。そして、備品の買い替えを行う。</p> <p>【委員】 ポッチャのコーナー設置などは工夫を凝らされていますね。前回お話した、各自の持病薬最低3回分なども徹底されておられますか。 他市町村への働きかけもお願いいたします。存外良い知恵がいただけるかもしれません。</p> <p>【委員】 防災訓練などの際に「災害時要配慮者」も参加できる取り組みは非常に有意義であり、ぜひ他の地域にも広めていただきたい。 訓練時だけでなく、日常的に何等かのかたちで関わりをもてるような工夫の必要性を感じる。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(協働事業)

	事業名	公共サイン改善事業
③	団体名	公共サイン研究会
	事業担当課	都市計画課
評価コメント	<p>【会長】 これまでの助成事業と比べて本事業で得られた知見は深いものがあるとの印象を受けました。特に「公共サイン」を市民のものに引き寄せることの難しさや壁について団体と都市計画課が共通認識を持っていた点が大いだと思います。 公共サインが松戸市の街の品格を高める重要な要素だとの認識が都市計画課内で生まれたことは嬉しいです。 協働の進め方について、団体にとって協働によって生じる効用と併せて、団体内のマネジメントの難しさを実感した点を今後の取組の糧とされることを期待します。 都市計画課にとっては、団体と協働する際に配慮する諸点を踏まえて、より良い協働を意識することを期待します。</p> <p>【委員】 「公共サインの改善を目標としている事業」として、3地域での、公共サイン成り立ちの歴史等の背景や特徴と地域資源、及び、そのサインをめぐる問題の原因を把握でき、そして何よりも「今後の公共サインの在り方を探ることができた」という報告は、非常に大きな成果と思える。公共サインが行政のものではなく、市民・地域のものだという認識を、より多くの市民への啓発と共に、改善するための方法論も視野にいたした活動を期待します。また貴団体内で、「縦割りにになってしまう」ことのないように、意思疎通を密に、「協働事業」を展開していただきたい。</p> <p>【委員】 大学生が市都市計画課と協働して事業に取り組むには多々困難なこともあることが想像できる中、数年にわたり継続実施してきたことは評価するところです。市は事業で確認された「公共サインの改善点」を受け止め、庁内で生かしていただきたいと思います。</p> <p>【委員】 この活動のスタートは、混沌とした松戸市の公共サインを何とかしようということから始まったものです。その活動を進めていく中で市民にとって松戸市とはどんなイメージなのかを、ワークショップや勉強会を通じて探っていく方向になってきたのは、公共サインをより深く考える上で重要なことだと思います。事業の内容を考慮すると都市計画課との協働事業になったことも当然の成り行きと思われます。又、活動報告書を見ますと多彩な活動を行っている様子も十分伝わってきました。さて、そこで一つお願いがあるのですが、これまでの研究の成果として、取りあえずで結構ですから何か形になるものを提示していただけないでしょうか。公共サインを考えるということは矢張り皆様が考える理想的なサインを提示することが最終目標と思うのですが、如何でしょうか。</p> <p>【委員】 大変見映えのいい報告書が出来上がりました。ただ、内容は伴っていません。事業は継続されていますから、前任からの引継ぎをきちんと行って、現在何をすべきか、どの段階にあるのかを把握しながら進めてください。何を目標に活動しているのかを見失った感があります。 とりあえずの目標は東京オリンピックです。それに向けた工程表を精査して、作業工程を検討しなおしてください。</p> <p>【委員】 報告いただいた後お話ししたように、決定打ではなくとも2、3の具体的シンボルをそろそろ発表してみたいかがですか。</p> <p>【委員】 研究も進められているので、具体的な「サンプル」をぜひ「かたち」にしていきたい。 ガイドラインの策定はハードルが高いと思われるが見通しを示してほしい。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

①	事業名	こども福祉フェスタ事業
	団体名	Familink *
評価 コ メ ン ト	【会長】	催事の参加者、協力したボランティアの数の多さからして、当事者の子どもたち、その家族、福祉関係者などのど真ん中に投げ込まれた球と言えるほどの事業であったと評価します。
		催事の協力依頼した先々の多様なネットワーク、事故に対する周到な準備(会場近隣の医療機関の確認など)に感心します。
		無理せずに継続できるやり方や規模を団体内やボランティアの人たちと話し合いながら今後の道筋を見出されることを期待します。
	【委員】	新しい試み—障がい者家族が地域の方々と一緒に楽しく遊ぶコンセプトがすばらしい成果をあげています。ぜひ「こども福祉フェスタ」をより発展、ひろがりを含めて、がんばって下さい。
	【委員】	こども福祉フェスタの開催で専門職の方々が多くボランティアで参加いただいていることが、参加した障害児・家族に安心感を与え、よりフェスタを楽しめたのではないかと思います。特に専門職として障害児にかかわる方々だからこその企画内容であり、遊具や福祉用具等目にするのがないものを紹介、体験する良い機会を提供できたと思います。
	【委員】	障害を持った子供と家族と一緒に遊べるというこの活動は、ユニークであり大変意義のあるものと思います。開催日の参加者の数を見ても周りの期待が高かったことが窺えます。その為の準備も念入りに行われた様で、結果として参加者にとって楽しく一日が過ごせたとの報告がありました。何よりも子供達にとって、掛け替えの無い思い出深い一日となったことでしょう。年に一回でもこのような素晴らしい体験がありますと、つい欲が出てもう1日位出来ないかと思うのですが、どうやら少々息切れをしたようです。又エネルギーを溜めて、子供たちの喜ぶ顔を思い描いて実現して下さい。
	【委員】	千葉県内初の事業とのこと、素晴らしい成果が上がっています。
		今回の実績を振り返って、うまく言った部分を分析し、ほかの団体へも水平展開されていくことを望みます。
		共感者を引き付けられて輪が広がったように思えます。
	【委員】	スタッフ数が増えるとよいですね。
	現時点では難しいと思いますが、年2回を目指し、頑張ってください。素晴らしい企画と感じています。	
【委員】	障がいがあるため家などで過ごすことが多いお子さんに、非日常を楽しめるイベントは家族も含めて有意義である。	
	あまり気負わずに、継続して回数をふやしていただきたい。	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

②	事業名	食を通じての多世代交流事業
	団体名	小金ほのぼの食堂の会
評価コメント	<p>【会長】 「多世代食堂」の標榜に相応しく、未就学児、子ども、大人が毎回参加したこと、イベント的体験やリサイクル活動を食堂に絡ませて定期開催したことを高く評価します。 この食堂で目指す人々の状態を実現するために、本事業で得た知見を踏まえて、新規利用者の広がり程度、リピーターの割合について検討されることを期待します。 会員やボランティアの関わり方、利用する子どもや大人の人数がちょうど良い状態だと思います。開催回数や人数などの規模拡大よりも内容を深める方向を団体内で話し合いされることを望みます。</p> <p>【委員】 「多世代食堂」というまちづくりと生涯学習をつなげるすばらしい企画、運営、実践力がある点が評価できる。(月二回) 登録ボランティア、つながりがとても良い企画のため集まっていることがわかる発表でした。</p> <p>【委員】 月2回開催するほのぼの食堂は、場所を持たず、多くの登録ボランティアと活動していることに、今後の地域での役割を期待します。 また、ゼロ円マーケット(子供服のリサイクル、物品提供)を併設するなど工夫されていることが、地域の実情に密着した事業として評価されます。</p> <p>【委員】 かつて子供の貧困が話題になった時に、子供食堂の活動が注目されました。その子供食堂が最近では多世代食堂に代わりつつあるようです。このほのぼの食堂の報告によれば参加者の2割くらいが70歳以上の単独の方とのことで、月1~2回の開催を待ちわびている様子が想像できます。この活動の素晴らしいところは、食事を提供するだけでなく、同時に色々な遊びやイベントを提供し、それを通じて世代の交流も生まれることを意図している所です。今後高齢者が益々増えていく中で、このような活動が大変重要な位置を占めていくものと思われます。</p> <p>【委員】 月2回の開催には頭が下がります。子ども食堂は他にも例はありますが、大人をも巻き込んだ企画はあまり見ません。 今後は共感者を得て、作業の分担をしていくと、負担を減らしながら大きな輪に広げることが可能になるでしょう。</p> <p>【委員】 月2回の開催ご苦労様です。子どもたちに変化が見えるとのこと、何よりです。公金を離れた後のことも考え、リサイクルショップなどご一考お願いします。</p> <p>【委員】 定期的に数多く実施されており、着実に地域に浸透している。 今後も工夫しながら参加者の広がりや活動の充実を期待する。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

③	事業名	笑劇で施設利用高齢者を元気にする事業
	団体名	浅間台笑劇研究部
評価コメント	<p>【会長】 笑劇公演を定期的に市内の高齢者施設で実施され、数値目標を大きく上回ったこと、新しい脚本による笑劇を披露したことについて、高く評価します。 会員の技能向上、新しい笑劇の提供など、現状に留まらずその先を追及しようとする姿勢に感心します。</p> <p>【委員】 年間16回の講演(リピーターの園+特養3カ所広げられている)がすばらしい。 参加型イベントも取り入れている。 今後のボランティアの担い手育成を考に入れる時期であると思います(新しいメンバーの入るチャンスを作ってください。)</p> <p>【委員】 この事業は、高齢者が元気に活動し、高齢者を支援、そして自分たちが活動を通して社会とつながり健康を維持するというカタチがうかがえます。演ずるという行動は、クリエイティブであり一層、心の健康につながると思いました。</p> <p>【委員】 動画による活動報告を見ますと、見ているお客さんが喜んでいる様子が窺えると同時に、主催者達が生き生きと演じている姿がそこにありました。公演のための準備と練習をし、新しいプログラムも作りながらの年10回の公演実績は素晴らしいの一言です。ふりかえりの自己評価がオール5であるのも頷けます。又、報告の中で訪問する施設によってはスタッフが忙しすぎて十分な対応が出来ていない所もあったとの指摘がありましたが、現在増えつつある高齢者施設の現状の問題点を垣間見る思いがしました。だからこそ、皆様の公演で多くの方に笑いを届けて下さい。</p> <p>【委員】 一定の定評が確立したと思われます。今後も安定した活動を期待します。 新規の団員(後輩学生など)の加入を迎え、継続活動されることを望みます。</p> <p>【委員】 3年後、5年後を考え、新しい劇団員が欲しいところですね。 今を精一杯やっていらっしゃるご様子が伝わってきました。笑顔は何より大切です。</p> <p>【委員】 自分たちも活動を楽しみ、それを各施設の方々にも楽しんでいただくという市民活動として理想的なカタチである。 活動の内容も身の丈にあっており、工夫と創意がうかがえる。 今後の超高齢化時代を乗り切るためにプレイヤーとギャラリーとも楽しみながら活動を継続していただきたい。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

④	事業名	「甚左衛門の森」保全育成事業
	団体名	松戸里やま応援団「甚左衛門の森の会」
評価コメント	<p>【会長】 オープンフォレストを初めて催し成功したことは、団体にとって「甚左衛門の森」保全活動に対して市民の関心と共感を促す好機になったと思います。 オープンフォレストや普段の活動状況を知らせる情報発信で、市民に対する活動の開放性(ガラス張り)を意識され、この活動への関心と共感が広がることを期待します。</p> <p>【委員】 松戸市内15の森(月一回、各団体の会議をしている。)との連携している。オープンフォレスト(年2日間)を行っている。竹細工、お土産付で好評であった。将来の夏休み、春休み版の自然活動に期待しています。(子どもと大人のボランティア交流も)</p> <p>【委員】 松戸市内にある放置状態の森はまだ多くあるかと思いますが、甚左衛門の森の会のような活動の立ち上げが望まれます。保全活動は継続することで、成果が市民の目に留まるようになって感じます。効果的な広報で仲間を募集し、継続できるような取り組みに期待します。</p> <p>【委員】 私が松戸に住んでもう40年以上経つのですが、とても住みやすい街であると思っています。それは都心に近いにもかかわらず周りに緑がいっぱいあるところですよ。そんな自然の環境が守られているのも、この報告にある里やま応援団の存在があるからでしょう。1年を通じてゴミの破棄や台風などから森を守り、オープンフォレストに一般の人々を招いて森の素晴らしさを実感してもらうことにより、理解者を増やしていく活動が、この街の魅力である森を維持していく原動力になっているのではないのでしょうか。</p> <p>【委員】 初年度の実績を拝見いたしました。事業が緒に就いたといえます。 森の整備は、目に見えてわかりますので、毎月の作業がやりがいがあると思います。 ほかの例では、月例の作業日を公開して、一般の方に見てもらおうとか、作業仲間に加わってもらうなどの工夫をされているようです。その辺をご検討いただき、少しずつ、仲間を増やし、事業が継続されていくことを望みます。</p> <p>【委員】 ごみの収集ご苦労様です。オープンフォレスト(独自)が多くできるとよいなと思います。キンラン、ギンラン、ヤマユリかつては当たり前前に咲いていました。希少になってしまったことが残念です。 あと、ガマズミ、紫式部(原木)、木いちごなど、実のなる木があると野鳥も来ますね。お怪我の無いようにお気を付け下さい。</p> <p>【委員】 みなさんの苦勞でゴミの撤去から下草の刈り取りなど整備が進められているので、土地の所有者や環境を維持する方策を調整してぜひとも定期的に一般市民の方にも楽しんでいただけるように考えてもらいたい。 学校とのつながりも既にはじまっているようですが、今の時代において子供たちにとって「森」はとても貴重な体験になると思われまますので、ぜひ実現をお願いしたい。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

⑤	事業名	世代を超えた交流ができる地域コミュニティの場をつくる事業
	団体名	明地区こあら食堂の会
評価 コ メ ン ト	<p>【会長】 毎月1回の食堂とイベントの定期開催を滞りなく実施したこと、その結果、数値目標を上回る子どもと大人の参加者数になったことで、この事業が地域に定着した取組になってきたと評価します。参加者どうしが顔なじみになり、食堂内での交流を土台に「互いに支え合い、助け合う」関係となるには、それを上手に促すファシリテーションやコーディネーションが大切になるので、3年ぐらいの時間を見込んで、スタッフやボランティアの力量をさらに高めることを期待します。</p> <p>【委員】 参加者60名以上と、計画の2倍になって好評である。(リピーターが多い)食材の調達を今後自立をめざして工夫すべきであると思いました。南部市場との協力も重要と思います。(チキン60本寄付すごいですね) 今後の学力サポートに期待します。</p> <p>【委員】 素敵なリーフレットが出来上がったことで、参加する子ども・子育て世代、ボランティア、寄付、食材提供などが増えるのではないかと思います。常に情報を発信して、多くの人を巻き込むことが継続する力になることと思います。</p> <p>【委員】 月1回の食堂の開催に合わせて色々なイベントを仕掛け、子供達が楽しみつつ高齢者を含めた大人との交流の場を作ることを視野に入れた活動の様です。参加者も延べ616人ということで、この地域において、こあら食堂がしっかりと地域に根付いている様子が窺えます。少子高齢化問題が毎日のように叫ばれていますが、この様な活動が、より多くの地域に広がっていくことこそ解決の糸口になる様な気がします。この活動をより長く続けていただくことを願います。</p> <p>【委員】 月1回の開催、とりあえずはこれで定着されていくのがいいのではないのでしょうか。その後、経済的、人的余裕ができれば拡充や水平展開できればいいでしょう。 リピーターが多く、新規参加者もあるということで、少しずつでも輪が広がっていく感じがします。スタッフ・協力者を増やすことで、作業負担を減らしながら、事業の範囲が広がると思います。慌てずゆっくり広めていきましょう。</p> <p>【委員】 学力サポート月2回を目指すには、スタッフ、ボランティアさんの増員も必要と思われます。 お子さんからは、100円も集められておられないようですが、大丈夫でしょうか。せめて50円だけでもと思うのは欲張りでしょうか。</p> <p>【委員】 定期的にも実施されており地域に定着しつつある。内容も工夫されており、誰でも参加しやすい工夫がされており、ぜひ今後も継続して活動していただきたい。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

⑥	事業名	地域猫ってなんだろう？野良猫トラブルなくそう事業
	団体名	動物福祉団体いのち
評価コメント	<p>【会長】 事業の柱である「上映会」の開催が危うくなりましたが、態勢を立て直して実施に漕ぎ着けた努力を評価します。 都市の地域コミュニティにおいて、地域猫は大切なテーマとなっています。今回の反省点を踏まえ、そういう事態になった原因を分析し、こうした活動が先細りすることなく継続し、市民の共感を広く得ていくことを期待します。</p> <p>【委員】 担当課との協働、連携が上手にできなかった点の改善をいかにすすめるのかについて、具体的にどうするのかをしっかりと考えて行ってほしい。</p> <p>【委員】 この事業の目的では多くの市民に地域猫活動を理解してもらうための上映会開催とあり、目的を変更されたことは大変残念なことでした。 松戸市市民活動助成金の設置目的である「市民活動団体が実施する公益的な事業を支援するため」ということを理解したうえで、担当課への協力依頼することが望まれます。提案事業の主体はあくまでも提案した団体であることを理解していただきたいです。</p> <p>【委員】 現在空前のペットブームであり、それに伴った様々な問題も、よくテレビなどで報道されるようになりました。野良猫問題も実際に被害にあわなければ、特に問題意識を持つ人も増えることはないでしょう。但し我々が知らない所で徐々に深刻な状況になっているという現状がある様です。その対策として多くの人に「地域猫活動」を知ってもらうというのがこの活動です。但し、当初の考えと実際の間に行き違いがあり、期待したような実績を残せなかったとの反省がありました。その活動で得たこともあった様です。野良猫問題は一挙に解決する方法は無いでしょう。地道な活動を少しずつ進めて行く中で展望が開ける時が来るのではないのでしょうか。</p> <p>【委員】 たまたま、市議の協力があって、ラッキーだった面もあるようでした。 皆さんと意思統一、意見交換をしながら、進められるとよいでしょう。「いいことをやっているのだから、黙ってても手伝ってくれる。」ということはありません。 地域猫の問題はそれぞれの地域で活動されているようですから、横のつながりも検討されたら如何でしょう。</p> <p>【委員】 興味のある人、歩けれとどこから知ったらよいかわからない人は多いと思います。若年層はSNSで情報を得ることが大半です。データがどんどん拡散していきます。 今はやっていませんが、一時的に名古屋市ふるさと納税で、犬の殺処分が0になったことがあります。松戸市に掛け合ってください。お願いします。 上映会は平日夜もしくは土日昼希望です。行きたくても行けない人が結構いました。</p> <p>【委員】 活動の内容・やり方が空回りした感がある。 事業自体も一般論としての啓発にとどまり、地域性や具体的事例には及んでいない。 事業を今後浸透させていくためにはアプローチに工夫が必要と感じる。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

⑦	事業名	音楽活動によるまちの活性化事業
	団体名	松戸合唱まちづくり同好会
評価コメント	<p>【会長】 施設訪問による合唱活動を計19回、定期演奏会を全1回と滞りなく実施されたことは、当初に設定した数値目標を下回る点はあったにせよ、十分評価に値する実績です。特に年間19回の施設訪問には感心します。 会員が息切れしない程度の事業量(活動回数や練習回数など)を見定めながら、この取り組みが継続することを期待します。</p> <p>【委員】 活動(15施設19回訪問、初めての施設3ヶ所)の様子がよくわかる発表でした。今後の課題としての部員の高齢化、ボランティア人数の減少に対して、生涯大学校の後輩へのピーアールが大切だと思えます。(18クラブ紹介のチャンスを活かして下さい。)</p> <p>【委員】 高齢者施設への慰問活動は順調に実施されていますが、たまには外に出て一般の方々にもメンバー募集を呼びかけてはいかがでしょうか。</p> <p>【委員】 音楽を聴くことは高齢者、特に認知症にかかっている方にとって、脳の活性化を促すのに効果があるとの報道がありました。認知症は脳が破壊されているのではなく、記憶が脳の中に抑え込まれている状態であると認識していますので、何かのきっかけで外に出てくることもある様です。そのようなことを考えますと、この活動の様に、各施設で歌を聞かせ、一緒に歌い、併せてバルンアートを実施する公演は、施設にとっては大変ありがたい存在になっていると思います。年に19回の公演実績は皆様の体力を考慮すれば大変なことと想像できます。しかし終わった後のお客様の満足した笑顔をその原動力として、今後も多くのお年寄りに喜びを与えて下さい。</p> <p>【委員】 気張らずに、できる範囲でコツコツやっていってください。気負って、高い目標を掲げたために、「目標未達」になってしまったようです。15施設で、19回の講演は立派なものです。団員の新陳代謝も対策を考えていくとよいでしょう。</p> <p>【委員】 市民からの参加があるとよいのですが。私自身5万人の第9合唱団に入っていた時期もありました。各小中学校にもコーラス部はたいてい存在します。探してみてもはいかがでしょうか。良いピアニストさんが2、3名ゲットできますように。</p> <p>【委員】 自分たちの趣味と地域活動を結びつけた好事例である。生きがいや活動の場を生み出すとともに、各施設に向向いて入所している方々も参加した活動が展開されている。活動の回数もとても多く、工夫が感じられる。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

⑧	事業名	無塩パン普及事業
	団体名	数値調理会
評価コメント	<p>【会長】 日常的に美味しく食べられる無塩パンの普及を目指して、試行を積み重ねてきた努力に敬服いたします。 いろいろなことを試行し、仮説の検証や発見において価値ある取組ですが、無塩パンを日常の食生活で定着させる壁は高く、他の切り口で健康食の啓発普及に努められることを期待します。</p> <p>【委員】 減塩をキーワードにすると“健康”志向の現代的課題解決に役立つ取り組みだと思えます。作ることに對するアレルギーを食べに行くことで克服していることを聞き、子ども食堂との交流、連携をもっと広げて下さい。</p> <p>【委員】 男の料理修行、減塩レシピづくり、食育・健康づくりがメインテーマとなる活動ですが、毎回真摯に活動に取り組むところがこの団体の魅力です。</p> <p>【委員】 現在高齢者問題の中で、男性の一人住まいが一つの問題になっている様です。特に食事環境が貧しく、健康を維持していく食事には縁遠いようで、その対策として多世代食堂などの活動が増えてきています。そんな中で、この活動は健康を考慮した塩分少なめのレシピを普及させ、男性自らが調理に興味を持てる様に、料理教室や実演販売行うという、ユニークな活動を展開しています。当日頂いた無塩パンは塩の代わりとなる胡麻の香りでおいしくいただくことが出来ました。又、配られたレシピも手軽に作れて、体に優しいレシピが多くみられました。ただ、今まで料理をしてこなかった男性が「一つ作ってみようか」という思いに至るまでは今少し距離がある様な気がします。</p> <p>【委員】 面白い企画です。調理の数値化はだれでも間違いなくできる、マニュアル化で男にも料理させるいい手段です。 ゆっくりとレシピを考え、のんびり進めてください。</p> <p>【委員】 やはり男性会員はなかなか集まらないようですね。無塩ではありませんが、ホームベーカリーを持っている家庭は結構あるはずですが。いただいた試食品、お味は結構なものでした。地道なご活躍応援致します。</p> <p>【委員】 事業の内容については、食をテーマに健康をキーとして深く掘り下げており興味深いものがある。ただ、広がりという面ではもう少し工夫が必要であると考えます。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

⑨	事業名	子供の居場所からの発信による地域ネットワーク構築事業
	団体名	さくら広場の会
評価コメント	<p>【会長】 新しい参加者の広がり、参加者(子ども、保護者、高齢者など)どうしの緩やかなつながり、地元の飲食店からの地域食堂への協力など、本事業の狙いである「地域ネットワーク構築」に係る道筋が見えてきたと評価します。</p> <p>【委員】 子どもだけでなく、高齢者、地域の連携が大切だと思います。多世代交流をぜひ深めて下さい。地域食堂の構成が子ども、お母さんが9割で高齢者1割だと思いますが、多世代交流をもっと広げて行ける良いと思います。</p> <p>【委員】 毎回工夫したワークショップのプログラムで、地域に根差して運営がされていると感じます。商店・事業者さんも地域に貢献したいという希望が少なからずあるので、思い切って声をかけることも必要なことと感じました。</p> <p>【委員】 さくら広場は、平日は子供たちが思い思いの時間を過ごせる場を提供しつつ、事業報告にある様な健康体操教室、工作教室、地域食堂運営等、多彩な事業を開催しています。7名のメンバーで運営していることを考えると、そのエネルギー活動は大変高く評価できます。又この事業の持続性についても具体的に手を付け始めているとの報告もあり、地域住民のふれあいの場として大いに期待が持てそうです。このような地域活動が各地域で増えていくことにより松戸市がより一層住みよい街になっていく為の模範的な形がここにある様に思います。</p> <p>【委員】 すごい活動内容、活動範囲です。会員の負担があまり大きくならないよう、見計らいながら活動してください。 長く継続される活動が重要です。そして、徐々に広げ、引き継いでいきましょう。 自家焙煎のコーヒー、頂いてみたいです。</p> <p>【委員】 ゆうえんさんの様な食堂がもう少しあったら最高ですね。委員から発言があったように、子どもたちから感謝状が贈られたら、もっと親密になれるですし、他のお店にも知らせられることでしょう。ひいてはそれがさくら広場の存在を知らしめることとなります。これからの活躍に期待します。</p> <p>【委員】 活動が限定された地域にならざるを得ない感はある。 組織だった活動というより個人に支えられており、広がりを期待する。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 スタート助成)

⑩	事業名	シニア世代生き生き地域資源マップ作り事業
	団体名	ほっとする街を考える会kinari
評価コメント	<p>【会長】 地域資源を「見える化」する地図づくりは、地域へ関わり、いろいろな人と知り合いになりたい新住民にとって判りやすい入口になったと評価します。 新旧住民が知り合う点でマップづくりは敷居が低く間口が広い入口ですが、旧住民が参加したくなる声掛けの仕方(例えば旧住民が知っていることを新住民へ教えてもらいたいと旧住民を立てる)の工夫が大切だと考えます。 作成したマップの活用は、マップづくりに関わった人たちの達成感と満足感を高める効用があり、かつ次への参加を促す要因となりますので、マップ作成→活用→参加促進の流れでこの活動に取り組み続けることを期待します。</p> <p>【委員】 マップ作りという手法を人と地域をつなげる過程を報告して下さって、とても良かったです。このマップをもとに散歩ツアーを開催出来ると良いと思います。</p> <p>【牧野委員】・地域の情報を収集しマップに落とすという作業は、さまざまな発見があったかと思えます。出来上がったマップを活用したまち歩きイベントなどを計画できるといいですね。このマップはもって歩くには大きいので3つ折りにするなど、編集・デザインの工夫があるとなおよかったと思えます。</p> <p>【委員】 人にとって住みやすい街かどうかは、自分の住んでいる地域(歩いて行ける範囲)の良し悪しが大きく影響するものと思えます。但し、普段行く所は限られている場合が多く、もし近所の詳しい情報があれば、行動範囲も広がるのではないのでしょうか。そんな中で発見や出会いがあり、楽しみが増えることにより今まで以上に外に出る時間が増えることが考えられます。この活動は主に金ヶ作の情報を盛り込んだ地図を地域の人々を巻き込んで製作し、それを皆様に配ることにより地域の活性化を目指すものです。いただいた地域マップは、手作り感があり特に高齢者にとっては必要な情報が網羅されています。又、このマップをベースに今後防災関係の情報を盛り込む等、地域の人々に必要不可欠なマップとなるように育てていくとの報告は大変評価できるのではないのでしょうか。</p> <p>【委員】 金ヶ崎マップ。地域に根差した面白い企画です。マップはいろいろな見方があります。防災マップ、安全通路マップ?いろいろアイデアが出ると楽しいでしょう。 ごちゃごちゃしない、ワンユースのいろいろなマップができることを期待しています。</p> <p>【委員】 4回開催した49名のうち、リピーターは何人くらいだったのでしょうか。 これからの課題について、もう少し深く掘り下げて欲しいです。 マップについて、とりあえず、座れる場所、トイレは必要だと思います。</p> <p>【委員】 地域での人のつながりを「マップ」の作成を軸に展開しており、それ自体は地域に焦点をあてた面白い活動である。ただ、コミュニケーションの創出がもたらすものや核となるものがはっきりせずもったいない感がある。 地域を中心に配布されているようだが、活用の状況や反響はどうか。 イベントの回数もまだ少なく、規模も小さいものがあるが今後の活動も地域に特化したかたちで進めていくのか。</p>	

平成30年度実施分 評価コメント(市民活動助成事業 ステップアップ助成)

①	事業名	「笑顔のお節介推進活動」事業
	団体名	介護・認知症の家族と歩む会・松戸
評価コメント	<p>【会長】 「地域パートナー」は本事業の大切な考え方だと理解しており、その養成講座で地域パートナーが新たに増えた点を高く評価します。 本事業の実施で得た知見(反省点含む)を踏まえて、この取組の磨き上げを期待します。</p> <p>【委員】 おしゃべり広場が市民センターで出来ないのは、場所の課題です。平均3,000枚のポスティングを行っている行動力はすごい。また、訪問相談130名もすばらしいと思います。公開相談(ファミレス)のアイデアもすばらしいです。おせっかいを増やし、広報することの努力をお願いします。</p> <p>【委員】 認知症や介護の不安に応える相談事業、訪問相談、おしゃべり広場、地域パートナー講座、地域交流会等、対象者に寄り添うプログラム開発が適切であり、高齢者支援活動の参考にしたいと思います。</p> <p>【委員】 現在高齢化社会の問題の中で一番の問題は認知症問題でしょう。テレビでも毎日のように特集番組があり、どうすれば認知症を防げるのかを色々な方が色々な方法を伝授しています。しかし私の実感として自分が認知症にかかる恐れは払しょく出来ていません。であるならば、万が一自分なり身内が認知症になった時にどうすればよいのか、そんな疑問に答えてくれているのがこの活動です。おしゃべり広場、公開講座、公開相談、訪問相談、地域交流会など多彩な活動を実施し多くの方の相談に答えているようです。各相談会の参加者は少ない様ですが、参加した方は必死の思いで来ているものと思います。いざとなった時の受け皿となる様、活動を通して認知症対策を極めていただければありがたいのですが。</p> <p>【委員】 いいお節介どんどんやってください。「お節介だ！」といわれるまで。 小人数で、数多くのミーティング、毎日大変でしょうが、あまり負担が大きくなならない程度に頑張りましょう。 共感する地域パートナーが増えるといいですね。</p> <p>【委員】 ボランティアを地域パートナーとするのはとてもあたたかい感じでした。3,000枚のポスティング、ご苦労様でした。 おしゃべり広場での、ビワの葉、ヨモギ、柿の葉など工夫されていますね。 人は誰でも年を取ります。そんな時に、貴団体のようなお節介さんがいれば、どんなにありがたいことかと感じました。</p> <p>【委員】 小規模な活動を数多く実施しており、より参加者との距離を縮め有意義な内容となる可能性が高く評価できる。 活動の内容に関しても幅が広く日々の楽しみにはじまり、個々のケースに応じた相談まで多様である。 いろいろな角度から支援ができるようスキルや内容の充実を今後も図っていただきたい。</p>	